



# 東京庄原格致会への思い

東京庄原格致会会長

合田良三



【略歴】  
川北町出身、昭和三十三年母校卒業。神奈川県立大学卒業後（後）成二四年退職後三年間日本証券代行行に勤務。

会員の皆様方におかれましてはご健勝で活躍のこととお慶び申し上げます。日頃は会の活動について何かとご協力を賜り、役員一同感謝しております。

私は、一昨年会長として指名を受けて以来、会の活動について一層の活性化をはかるため、次の六項目を重点に努力しております。

### 一、総会懇親会の充実

本会のメインイベントとして同窓意識を高め、より多くの会員の参加を求め、会の更なる発展を目指す。

### 二、同好会の充実

現在は、囲碁、ゴルフ、バス旅行の各同好会が活動中。

### 三、学年幹事の充実

母校並びに母校同窓会と連絡を密にしてパイプを太くする

### 四、年会費納付率のアップ

会員相互間の意見交換の場として、会員と事務局との意思疎通の場として活用。

さて、東京庄原格致会の活動状況ですが、本会の会計年度は九月一日より翌年八月末日までとなっておりますので、平成二十年九月以降の活動の概略を順にお知らせします。

(平成二十年)  
九月  
○会報十六号を会員六五七人へ発送。  
十月  
○総会及び懇親会の開催  
詳細は一頁に記載しておりますが、会員四十五人のほか、来賓として庄原から母校の福山校長先生、同窓会藤原幹事長、庄原市

役所から江角事業副市長他、庄原実業高校同窓会堀江東京支部長のご参加をいただき、総勢五十人での開催となりました。総会後の懇親会では庄原名産を賞品にした福引などで楽しい歓談の時を過ごしました。  
○ホームページの立ち上げ  
現在まで、事務局からの情報発信の場として活用しております。

### 十一月

#### ○母校同窓会総会に出席。

総会は伊達同窓会会長の挨拶に始まり、福山校長の近況報告等があり、多数の来賓の出席のもと盛大に開催されました。

総会の記念講演として「古名刀再興への挑戦」と題して善博日本刀鍛錬道場の刀匠久保善博氏（西城町大佐在住）の話がありました。氏によると、なぜ「古名刀」の再興が困難かという理由として、「古名刀」は博物館の展示や家宝となり入手が難しい上、名刀の一部を削り近代科学による分析でも、地鉄（素材の鍛錬）、刀文（焼入れ）、姿（鍛造）、映りの研究が難しいなど、いろいろと感銘深い話を聞くことができました。

懇親会も盛り上がり、和やかな進行で楽しい歓談のひと時を過ごしました。

○世羅高校東京交友会に出席。  
本会もいろいろお世話になりました。秦典三会長が退任され、相談役に。新会長は十河研一氏が就任されました。

(平成二十一年)  
五月  
○庄原実業高校同窓会東京支部総会に出席。  
佐藤栄子支部長が退任され顧問に。新支部長に堀江端夫氏が就任されました。

同好会活動をのぞく主な活動は以上のとおりですが、昨年十二月、今年二月、七月の三回、会の運営、総会の反省等を議題として役員会を開催しております。

同好会の活動については本誌の「同好会だより」をご覧ください。各クラブとも新しい参加者を大いに歓迎しております。興味をお持ちの方は事務局にご一報ください。また新たな同好会の発案についてもご要望があればご連絡ください。

東京庄原格致会は、かつては会員数900人を数えたのですが、死亡、転出などによる減少に加

え、近年は少子化による転入者の減少、個人情報扱いの厳格化から、個人情報入手困難などにより、会員の減少に歯止めがかからず危惧を抱いております。これに伴い必然的に会の運営をまかなう財源としての「年会費」の納入者も減ってきており、対応に苦慮しているのが現状です。

これに対応するため、

### 一、ホームページを会員同士の情報交換の場として、大いに活用していただける環境にすること。

その中から会に対する会員の皆様のニーズを汲み取り活動の活性化に資する。

### 二、同好会活動を通して親睦と交流の輪を広げること。

などによって会が益々発展するよう努力していきたいと考えております。

皆様の一層のご協力・ご支援をよろしくお願いたします。

## 学問を好み、徳を重んじる学校

### 格致致知・誠意正心

広島県立  
庄原格致高等学校校長  
福山友善



【略歴】  
昭和四十八年庄原格致卒業、昭和五十三年採用、三次工、三次、呉宮原、三次定等に勤務、広教委勤務四年

平成二十一年度は、新入生百十五名、新しい教職員十三名を迎えて元気に出発しました。この一年をよき年とするよう、教職員は力をあわせて頑張っています。

同窓会には、全国大会出場を祝う横幕を購入いただき、生徒共々感謝いたしております。また、東京庄原格致会からは、進路講演会の講師を遠い母校まで派遣くださり、ありがたうございました。

講演のことで、「大きな目標を持つこと」「切磋琢磨すること」を話したいただきました。年度末には、神戸大、広島大、岡山大などの国立大と有名

私大合わせて約三十名を合格させることができました。この人数は卒業生の約二十五%となっています。今年度も引き続き頑張っていきたいと考えています。

さて、新聞紙上を見ますと、日本の太陽光発電やハイブリッド車など世界から注目を集めている環境技術が、いくつか紹介されてきました。このことは、日本の科学技術の水準の高さを表し、ひいては日本の教育の成果であると言っても過言ではありません。日本は「教育立国」といった方針を立て、今の日本の勢いを失うことなく維持しようとしています。

一方、大学生による大麻吸引の問題など道徳の乱れが指摘されることも多くなってきました。規範意識や道徳が求められる時代を迎えてもいます。

本校では「学問を好み、徳を重んじる人間を育てる」という伝統ある方針を生徒も教師も共有し、これからの社会で期待される人材の育成を成し遂げる学校であり続けたいと願っています。

本校は平成二十一年度の広島県高等学校チャレンジハイスクールに指定されました。この事業は昨年度までの進学指導重点校の後継事業に当たり、昨年度までは十五校の指定でしたが、今年度のチャレンジハイスクールは十校の指定と厳しく狭き門となりました。しかし、本校は先生方の指導によく応えて頑張った生徒の実績が評価され、広島県教育委員会から生徒の学力向上に引き続き取り組み、地域社会に貢献できる人材の育成に取り組みで欲しいという意味を込めて指定されました。

今年度も教職員一丸となって、学力向上にチャレンジしていきます。

原稿を書いていく校長室の外では格致祭文化の部（文化祭）の準備を生徒達はしています。今年のテーマは「庄原スーム、ズーム格致」として各種発表を行います。興味を感じているのは、家庭クラブ「ミルクラブ」が作る「ワニグラタン」、PTA有志が店出しする「手打ちそば」、生徒が姫を踊る「敦盛さん」保存会の皆さんによる客演があり、郷土色豊かな文化祭になったと感じています。

その他にも多くの出し物があります。明日から二日間生徒とともに楽しみたいと思います。

最後になりますが、昨年は総会に出席させていただきました。今年も都合がつけば出席したいと思っております。何卒よろしくお願いたします。東京庄原格致会の皆様が母校を縁として絆を大切にされていることに敬意を表すると

もに、今後とも、上京する卒業生を迎える温かい組織を維持発展させていただくことを期待して筆を置きます。(五月記)

### 家康の心構え

同窓会会長  
伊達 正治



【略歴】  
昭和十八年卒業。母校の校長及び他の高校長を歴任。広島県立公立高等学校校長協会会長。文部大臣教育表彰・勲四等瑞宝章叙勲受章。現在、庄原地区福祉協議会会長。

東京庄原格致会の会員の皆様方にはいかがお暮らしますか。お元気で活躍のことと拝察いたします。

故郷庄原は、今、青葉若葉に野山はふっくらとふくらんだたずまいです。水田は一面若緑が薫風に揺れて、初夏の美しい光景が目にも優しく映えます。

同窓会は年々大きく成長をつづけております。ひとえに会員皆様のご協力のたまものと衷心より敬意と感謝の意を表する次第です。

最近、新型インフルエンザと世界的経済不況が連日報道され、社会的混乱が生じているようです。他の国と比較して我が国の対策が過剰であると言われはじめていますが、事実これまでの政府の行政施策が場当たり的であるため不信と不安が増大しています。人間は不安や恐怖には極めて弱体で流言飛語に心を奪われ、とすれば根拠のない風評に従うものです。

政府筋が「冷静な対応」を繰り返して呼びかけていますが、これはそのまま政府へ返上し洞察力に基づいた経済対策や感染対策を実施してほしいと思います。  
小田原征伐を終えた秀吉が十騎ばかりの小姓を従えて引きあげていくのを見て、家臣の井伊直政が家康に「今がチャンスです。小姓十騎ばかりの今なら秀吉を討つことが出来、天下は家康のものになる」と進言したところ、家康は笑って「あわてるな。急げば事をし損じる。そのうち自然に天の時がくる。それまではじっと準備をして待つ」と言って進言を戒めたという話があります。

現今の便利な超スピード社会の中で不安と不況に右往左往している今こそ、家康の悠然・泰然とした慎重な態度を世の政治家は学んで「冷静な対応」をし、安心・安全な生活が出来る先見性のある政治を切望するものです。  
駄文を寄せてご挨拶とし、会員皆様のご健勝を祈念して擲筆いたします。(五月記)



### (母校への提案) 目標は高く掲げてこそ



二十四年卒  
坂井 昌彦

【略歴】  
早稲田大学第一文学部卒業。学習研究社にて、雑誌・単行本編集長。文筆業・出版プロデューサー。広島県中学テニス代表(国体)、日本テニス協会公認指導員。東京テニス代表として「ねりんびっく」等に出席。日本ペンクラブ会員。

喜寿を通過した現在でも、痛い両膝関節を騙しながらテニスクラブに通っています。それほどテニスには魅力があります。

自慢話めきますが、一九四七(昭和二十二年)私は第二回国民体育大会(石川県)に、軟式テニスの広島県代表として出場しました。もちろん格致としては第一号選手です。

大戦が終わわり、芋畑だった校庭にローラーを掛けてコートを復元し、独学独習で練習を積み備北ではトップに立ち、誠之館と覇を争って県代表の座を獲得しました。国体後、本物のテニス(硬式)の魅力に触発され、軟式を捨て、唯一人で硬式に挑戦することを決意して、せつせと広島島の試合に通いました。  
大学への進学と同時に体育会の硬式テニス部

入門。当時の早稲田は加茂兄弟、宮城を擁した全盛時代で、大学のみならず全日本を制覇していました。この凄い連中の中では、逆立ちしてもレギュラーに慣れっこない。でも何とか一通りの技術は身につけることができ、お陰で後年協会の公認指導員にもなれたし、歳をとってからも、シニアの全国大会にも東京代表として再三出場したりもしました。

もう十年以上にもなるうか、東京庄原格致会に出席いただいた校長先生に、硬式テニス部の創設を提案したことがあります。テニス部に限らず、いつの時代でも子供たちは無限の可能性を秘めており、その発現の場さえ与えれば驚くほど見事な花を咲かせるものです。その例を一つ挙げよう。

インターハイ・テニスで全国十四連覇した柳川高校です。出版の仕事を通して古賀通生校長と親しくなり、当時の生徒だった福井列選手(日本チャンピオン)たちと共に外国遠征などをして、その生息をつぶさに見てきました。素人でもよい、熱意のある指導者が一人本気で頑張れば、子供たちは奇跡的な成長で応えてくれるものです。テニスの素人だった古賀先生が、中央から馬鹿にされながら踏ん張り、素質不明の田舎の子を信じて鍛え上げ、瞬く間に全国ナンバーワンの座を獲得してみせたのです。

これは単にスポーツだけに止まらない。志を高く掲げれば勉強も頑張るようになるし、またレベルの高い勉強のできる子も集まるようになる(名古屋の市邨学園も素人監督の飯田徳治先生の努力で高校女子日本一)。

母校の校長先生からは、ソフトテニス顧問の先生の同意が得られないから駄目だという返事でした。もちろん予算や指導者の問題もありました。しかし経費の莫大な野球部でも硬式に生まれ変わって甲子園予選で頑張っているのです。野球部が甲子園というのなら、テニスはウィンブルドンを目指せばよい。何事もすべてゼロからの出発です。「まず、やってみなはれ」です。指導者なら、短期集中式で定期的に、手弁当で(広島在住の仲間と)出向いてもよいと提案している。

早ければ早い方がよい。まだライバルも少なく早いもの勝ちです。子供たちの潜在能力を信じて期待したい。力がついて成績が上がれば、素質のある選手が方々から庄原格致を目指して飛び込んでくるでしょう。

こうして母校は、スポーツに限らず、魅力ある「全国区」の高校に変貌するでしょう。

## 酒井会計事務所

税理士 酒井 久幸

(昭和25年卒)

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町  
2-13-4  
電話 (03) 3255-8995

## 洋光繊維株式会社

代表取締役

木村 貞寧

(昭和25年卒)

〒130-0004 東京都墨田区本所4-9-10  
電話 (03) 3623-3176

# 四国八十八霊場の『歩き遍路』



三十七年卒  
遠藤 靖夫

〔略歴〕  
高町出身。三菱信託銀行（現三菱UFJ信託銀行）広島支店に入社。大阪、福岡、千葉、横浜、都内各所で勤務。平成十六年子会社で定年。嘱託勤務を経て現在無職

最近での一番の思い出と言うと、四国霊場の『歩き遍路』になります。一切乗り物に乗らず、歩きにこだわって八十八霊場を四十三日間歩きました。距離は約千二百キロです。きっかけは、子会社勤務も六十歳の定年にあと二カ月に近づいた一月末、妻と四国旅行に出掛け、その道中でバスガイドが「お遍路は歩かないと価値が無い」と強調します。帰宅後、歩き遍路の体験記がネットに沢山あることを知り、読み進むうち興味が湧き、辞めたらやってみる気になってきました。

昔ながらの歩き遍路を保存、普及したいという奇特な方があり、ガイドブックも発行されており、それも求めて半年間は調べ、準備をしました。遍路道は、幹線道路ではなく、ガイドブックが無ければ誰も歩けません。出発は、気候も安定している九月中旬、夜行バスで徳島市に向かい、一番札所の霊山寺から歩き始めました。リュックは中身を減らしましたが、雨具、着替え等旅行用具一式、ガイドブック、納経帳など寺の用具、食事や飲料を入れたお八キロにもなります。最初は気恥ずかしいお遍路の装束も、現地では少しも恥ずかしくありません。

道中は菅笠をかぶり、手には弘法大師さまの身代わりの金剛杖を持ち、一緒に歩きます。山門に着くと白衣と輪袈裟をつけ、手には数珠を持ちます。本堂と大師堂の二ヶ所で蠟燭、練香、お賽銭をして納札を納め、般若心経を一回とご真言を三回唱えます。それが終わると寺務所に立ち寄り、納経帳に印を貰います（三百円）。掛け軸もやりましたのでそれにも印を貰います（五百円）。お寺では約三十分かかります。昼食時に食堂があることなど無く、コンビニなどで調達したおにぎり等を途中で適当に食べます。



38 番札所 金剛福寺にて

一日目二日目は、気も張っているし、あまり疲れも感じず快適でした。

歩き遍路はほとんどの方が一人だけで歩きます。分かれ道の電柱などに歩き遍路用の小さな矢印ステッカーが貼ってあり、コースを外れなければ順調に歩けます。外れると、今どこにいるのか分からず焦ります。尋ねようにも、人がいません。

コースは田舎道もほとんど舗装してあり、山道もよく整備されたハイキングコースの感です。お寺は山の上などにも多いのですが、最も難所と言われる十二番の焼山寺へも、丹沢の大山登山よりはやさしく感じられました。

三日目からは、やはり疲れも感じます。靴は軽登山靴。大分履き馴らしていても五日目の午後になると、足指全体が圧迫から赤く腫れ痛くなりました。その後数日水ぶくれになり、水を抜くと痛みは和らぎます。薄皮を大事にして下の皮膚が丈夫になった頃には、またも赤く腫れて痛いのです。私は足裏や指には毎朝テーピングをし、一時間毎に休んで靴を脱ぎ、足をマッサージしたもので、それでも豆は軽症でした。無理をして足裏全体が豆で歩けなくなつた人にも出会いました。筋肉や膝の痛みで特に苦しみました。雨の日も歩きます。雨の日は、腰を下ろして

休める所を探すのに苦労します。山頂にある六十六番雲辺寺から観音寺市への行程の時は、台風前の雨の日で、靴の中まで濡れ、豆の足がふやけて痛みが増し、やっとの思いで宿に着きました。翌日は台風が直撃し、危険なので宿で待機しました。ちょうど良い休養になりました。

お遍路には、心得、戒めもありますが、どれも常識の範囲内です。例えば、道に迷うなどで困り苦しんでも「これもお大師さまからの修行」とプラス思考します。

宿に着くと、浴衣に着替え、着ていた物を全て洗濯し、風呂に入ります。夕食は六時。お遍路中、私は禁酒しました。

夕食後は、明日以後数日の計画を立て、歩ける距離から明晩の遍路宿（民宿六千五百円位）に予約を入れます。混んで断られたことは無く、全て個室でした。テレビも天気予報を見るくらいで八時にはもう寝ます。

慣れてくると、宿の朝食を取ると出発が遅くなり効率が悪いので、夜に精算を済ませて家人がまだ寝ている六時前から歩きました。歩きは朝が快調です。午後四時頃には次の宿に着くペースで休みながら歩きました。

お寺は大きな市街には沢山あり、一日で六寺回れることもあれば、室戸岬にある最御崎寺と足摺岬にある金剛福寺などは、前の寺から七十五キロ以上も離れており、三日間はただただ歩き、ようやく着きました。

お寺がないと一日三十五キロ位は歩けます。歩き遍路で、全てを一回で回る人は少なく、何回かに分けて回るの方が多いうです。一ヶ月以上も歩き続けることは難しく、また、仕事を持つていたら休めません。

今日は、とにかく予約の宿まで歩く。やることは非常に単純ですが、毎日ですから生易しくはありません。他の事を考える余裕が無く充実した毎日です。修行だからなのでしょう。辛いのですが、満ち足りた時間が流れます。

最後の八十八番大窪寺が終わったときは達成感と共に、もう終ってしまったのかと言う名残惜しさを感じました。その後、高野山の奥の院にもお参りし、結願しました。

ご参考までに、費用は一日約一万円かから一切合切で私の場合は四十九万円かかりました。「何か悟りを得たかい？」と訊く人もいますが、悟りなど及びもありません。何か少しだけ自信を得たと感じる位です。



## 西葛西・井上眼科病院

東京女子医大名誉教授

院長 宮 永 嘉 隆 (昭和 28 年卒)  
医学博士

〒134-0088 東京都江戸川区西葛西5-4-9  
TEL 03-5605-2100 (代)

老化にブレーキ

# 八味地黄丸

株式会社 東洋薬行  
代表取締役 恵木 弘 (昭和30年卒)

〒113-0033 東京都文京区本郷6-19-7  
TEL 03-3813-2263 FAX 03-3813-0202

# あえて「団塊世代」の 第二の人生にむけて



四十年卒  
竹岡 健治

〔略歴〕  
庄原東本町生まれ。一九六九年  
広島大学工学部卒業、  
一九七一年東北大学大学院工  
学研究科金属系修士課程修了  
日立製作所勤務後、横浜市立  
小学校教員退職前、横浜市立  
大学教員退職後、修士課程（  
夜間主）入学、六年後終了修  
士論文を「横浜市教育行政の  
研究」として出版

「団塊世代」は厳密には一九四七年生まれを指すようですが、一九四六年生まれである私も「団塊世代」との自覚は持つてきました。「団塊世代」は様々な捉え方がありますが、なんと言ってもその特徴は最大の人数であることと戦後の経済成長と共に生きてきたことにあると思います。また、一九六〇年代の終わりにかけての若者の異議申し立ての中心でありました。戦後の日本社会に大きな影響を及ぼしてきたと言えます。

今、派遣切りで話題となったように残念ながら日本は格差社会となり、私たちの子供たちが不安定な状況に置かれています。また、私たちは世界で絶え間なく戦争や紛争が起こる中で、憲法の存在もありその中で命を失うこともなくきました。しかし、今後子どもや孫世代が戦争や紛争により命を失う危険性は増しているのではないかと危惧しています。このような社会を造つたことに私たちは責任があるのではと考えます。

「団塊世代」である私たち世代は、いわゆる社会の一線から退き、第二の人生を生きていくこととなります。ここには、時間と自由（組織等からの）があります。これを使わない手はないと思います。私の例で言えば、小学校教員をしていただくこともあり、退職前に教育系の夜間主の大学院で学習する機会を得ました。その成果を幸いにも「横浜市教育行政の研究」という本に示すことができました。その後、引き続き月二回教育委員会会議の傍聴を行い、傍聴記をブログにて発信しています。また、地域の問題

にも関わっています。一つは、都会における貴重な緑地を開発から守る運動です。これは市民の力もありストップ出来ました。もう一つは、かなり危険度の高いウイルス等を扱うバイオ施設建設問題です。今後バイオ施設が必要であることは間違いありません。しかし、バイオ施設が住民にとって安全の保証の法整備が現在されています。このことに関する取組みをしています。「団塊世代」はこの歳を重ねるまでに、豊富な経験をしてきています。その経験を次世代のために使いたいものだと思います。今がある意味一番活躍出来るのかもしれない。

## 〇〇〇 出版案内 〇〇〇

このたび、昭和四十年卒の竹岡健治さん（広島大学工学部卒・東北大学大学院卒・元横浜市立小学校教員）が、「横浜市教育行政の研究」を出版されました。

本書は、横浜の小学校で28年間働いた竹岡さんが、中田市長の登場で何が変わったかを地道な研究と資料で将来の教育行政の歩み方を示されたものです。

ご希望の方は、スペース伽耶 (Fax: 03-5802-3306) にご注文をお願いします。一部2,000円です。

## 二十六年卒の田中茂樹氏 庄原市市民栄誉賞を受賞

庄原市が新しく制定した市民栄誉賞に、教育文化の振興に多大な貢献をされた國利義勇さんとポストンマラソンで日本新記録を樹立し優勝された田中茂樹さんが選ばれました。

市民栄誉賞は、社会福祉の向上、経済の発展及び学術、スポーツ、文化の振興に貢献し、郷土の誇りとする方を顕彰するため、昨年十二月に創設されました。

今年一月二十九日、市役所で授与式が行われ、滝口秀彦市長から國利さんへ賞状とメダルが贈られ、田中さんには同日、東京都内で授与されました。

田中茂樹さんのプロフィール  
一九三二年四月 庄原市高門町(旧敷信村)生まれ  
一九四八年四月 広島県比婆西高等学校入学

高校進学を悩んでいた頃、高門出身の蒔田先生と出会い将来を考がえて比婆西高校に入ってから勉強しなさいと強く勧められ、比婆西高校に入学。高門から高校まで毎朝夕、片道4キロの道を走って通学。

一九五〇年 愛知国体20キロマラソン優勝  
一九五二年三月 広島県比婆西高等学校卒業  
同年四月 日本大学経済学部入学

(多くの大学から勧誘のなか、母校の先輩である藤田先生の出身校、日本大学に進学)  
十九日、米国ボストン・マラソン

に日本代表の一人として出場、日本人初の優勝を果たす、現地で「アトムボーイ」と話題を巻き起こす  
広島国体20キロマラソン優勝

日本大学経済学部 卒業後  
銀座松屋 池袋西武等百貨店に勤務  
二〇〇八年四月

「マラソン日本を育てた勇者たち」を出版(今は亡き「マラソン日本」の基礎を育てあげてきた先輩、同志達の足跡を尋ね、その基礎を築き上げた人達の尊敬な意志を継ぎ、強く逞しい「マラソン日本」の復活を期待し、先達達に感謝と、業績をたたへる為、出版されたそうです。)

日本陸上競技連盟競技本部強化部委員、日本陸上競技連盟理事等を務めた後、現在はマラソン連盟会長、東京走友会副会長、東京ハリヤークラブ代表として活躍中。(事務局・積山弘佳)



受賞の田中茂樹さん(写真右)

## 株式会社 龍 寿司

代表取締役 椎名 喜多子  
(旧姓 室伏) (昭和31年卒)

東京都中央区卸売市場内・1号館

TEL/FAX 03-3541-9517 営業時間/午前6:30 ~ 午後2:00  
TEL 03-3547-6894

(予約はお受けしておりません。日曜・休日等市場が休みの日は休業致します。)

## 宝 石 専 門 店

J E W E L R Y



東京都中央区銀座6-7-2  
TEL. (03) 3572-5011  
http://www.miwaj.com

# 郷土だより

## 近況

市庁舎旧から新へのバトンタッチ完了

三十四年卒 竹本健三



旧庄原市庁舎は、昭和二十九年三月に七町村が合併し旧庄原市が誕生した時、その建設が始まり、三十一年三月に竣工しました。それから五十三年間、旧庁舎は庄原市の発展を見続けてきました。この間、平成十七年三月に平成の大合併が行われ、新庄原市の誕生を見届けました。

そして、滝口季彦市長が公約の一つとして掲げていた新庁舎の建設が昨年度実行され、今年三月末に竣工し、同時に職員は新庁舎で業務を行っています。

これにともない、半世紀以上に亘って庄原市を見続けた旧庁舎が七月十五日にその姿を消してしまいました。旧庁舎で業務に携わった者としては、一抹のさみしさを覚えます。新庁舎には、これから続く庄原市の発展を末長く見届けてもらいたいと思います。

市の発展に関するものとしては、昨年の十二月に郷土の誇りとなる活躍をされた方を顕彰する目的で「庄原市市民栄誉賞」が創設されました。

(詳細は別掲記事にゆずらせていただきました。事務局)

次に、東 泰治先生(昭和三十一年母校卒業、平成八年母校百周年時に校長として在籍された。)の情報を少しお知らせしましょう。

先生はこれまで現職の時から、庄原市体育指導委員協議会の会長として、長年生涯スポーツの普及や健康づくりに携わってこられました。三年前から市域を超えて、広島県体育指導委員協議会会長として、広島県全域はもちろんのこと、中国五県や全国の体育指導委員の活動の環境づくりに奔走しておられます。さらに、今年四月の庄原市体育協会の総会において、十二年間に亘り庄原市の体育活動の環境づくりに尽力された門田三

雄会長の勇退に伴い、理事長を務めておられた先生が後任の会長に選出され就任されました。ちなみに、庄原市が誕生してから歴代の会長さんは、岸 悦夫氏、宮森顕二氏、増原一郎氏、門田三雄氏(新市初代会長でもあります)等々となっています。

先生は、体育指導委員をはじめスポーツ少年団本部長や他に多くの諸団体の活動の中心的な役割を担っておられ、非常に多忙な日々の活動をしておられます。その上での新たな任務が加わったわけですが、先生は、「選ばれた以上全力をつくして任に当たりたい」と決意表明をされています。

庄原市体育協会の発展のために先生の活躍を期待しますとともに、私たち先生をとりまく同窓生も全力をあげて応援してまいりたいと思います。

(筆者は、長年庄原市役所に勤務されると共に、退職後も庄原市の体育振興に寄与されてきております。この度、東理事長の後任として重責に就かれました。竹本さんのご活躍をお祈りいたします。事務局)



新市庁舎



春の道後山

(庄原市役所商工観光課提供写真)

# 同好会だより

「ゴルフ同好会」  
第四十回コンペ

記念大会でラッキーな優勝

二十五年卒 室伏 孝一

第四十回の記念すべきコンペは、平成二十一年三月二十三日(月)、大厚木カントリークラブ桜コースで二十名の参加により開催されました。

この記事を書くに当たっては、私がモウリシヤスのゴルフツアーに出かける直前に、前回(三十九回)の優勝者で今回のコンペのお世話をされた寺川さんから感想文を依頼されましたので、旅先で書く約束をして出かけました。

モウリシヤスへは三度目ですが、南緯二十度は今が冬の季節です。一九六八年にイギリス領から分離し、一九九二年に共和国として独立した人口約百二十万人、東京都と同じ位の広さの国です。

殆ど砂糖きび畑ですが、サンゴ礁に囲まれた美しい国です。多民族・多宗教の国でありながら、お互いに共生しあい、治安も良く、真っ白な砂浜に面した豪華なホテルの雰囲気は抜群で、ゴルフ場もホテルに付随しており、ハワイと似た気候の中でプレイを楽しみました。香港経由で約十五時間の長旅ですが、充分心を癒してくれる観光地です。今回は六泊八日の中で四回のラウンドを楽しみました。

さて、第四十回記念コンペは、「大厚木桜コース」で二度目の開催でした。

コースマネジメントは前回のラウンドを思い出しながら、同伴者にも恵まれ楽しくプレイが出来ました。1位はハンディキャップ十四の岩竹康良さんでしたが、初参加の為私に優勝が転がり込んだ次第でラッキーでした。記念の銀製カップを積山さんが寄贈してくださり感謝しております。岩竹さんとは山の内西の出身同士で、久しぶりに故郷の話が弾み、その後も手紙のやり取りまで出来るようになりました。ゴルフはプレイを楽しむ他、「あの人に会える」ことの喜びを感じることがしばしばあります。

創業31年



## 二階堂調剤薬局グループ

二階堂調剤薬局 大山調剤薬局  
ま え の 薬 局 グリーンファーマシー

代表取締役 薬剤師

### 石井美佐子

(旧姓 瀧口) (昭和48年卒)

東京都板橋区南常盤台 1-30-21

TEL 03-3958-9955



第40回記念大会の参加者

優勝	室伏 孝一(25年卒)	86	14	72	78
準優勝	生田八洲紘(33年卒)	98	22	76	77
第3位	吉岡 公義(35年卒)	91	14	77	77
ベストロ(第7位)	亀井 勲三(35年卒)	86	8	78	78

昨年は、七十回のラウンドができましたが、今年もモウリシヤスの四ラウンドを加えて四十回のプレイをしました。友達に恵まれ、健康のパロメーターになれば良い、和気藹々の中でプレイが出来ることを楽しみにしております。今回の記念大会も、表彰・懇親会の中で広島弁が飛び交い愉快なひと時でした。あと二年で八十歳になります、少しでも長くゴルフが出来るように健康でありたい、無理のないスイングでプレイ出来れば良いと願っております。

次回は十月二十四日(土)、近藤正昭さんのお世話で、都内の赤羽根ゴルフ場で開催が決まりました。又どんな出会いがあるか楽しみです。一人でも多くの方の参加を期待しております。

平成二十一年七月七日、モウリシヤスで、今年の中で一番小さい満月の日、日本から持参の色紙などを折り紙にしたりして笹の葉を現地の日本人ガイドの方が準備してくれたものに飾り付けて、南十字星に願いをかけて七夕祭りをし、抹茶のお点前を楽しみながらこれを記しました。

今回の上位入賞者は次のとおりです。

次回(第四十一回)ゴルフコンペのお知らせ  
日時 平成二十一年十月二十四日(土)  
8時頃スタート  
場所 赤羽根ゴルフ場  
東京都北区浮間二の18の7  
申込み先(幹事) 近藤 正昭  
電話 044 9222 8923  
携帯 090 9157 6115

詳細については幹事にお問い合わせください。

【バス旅行同好会】  
第七回日帰りバス旅行  
身延・久遠寺から富士四湖へ

気圧の谷に包まれた雨模様の中、八月二日、第七回・日帰りバス旅行が十七人の仲間が集い実施されました。

新宿駅西口、スバルビル前八時出発予定でしたが、遅参者一人を待って、やっと二十分遅れで出発(見切り発車直前の到着でした)。

今回は、身延山・久遠寺参拝後、富士五湖のうち山中湖を除く四湖(本栖・精進・西・河口)の周辺を周遊するというコースでした。

往路は、雨模様の天気のためか懸念した渋滞もなく、ほぼ順調に進み、甲府南ICを十時四十五分に降り、車中の「到着時間当てクイズ」の目標となった身延山・総門下を十一時三十八分に通過しました。三門前で、健脚者はバスを降り、「登りきれれば悟りの境地(本堂)へ到着する」二百八十七段の急な石段に挑戦、バス利用者が本堂に到着とはほぼ同時に登りきった猛者もいました。

参拝を終えて昼食場所の「身延温泉」に十二時四十五分に到着。名物の「ほうとう」と「ゆば」に舌鼓を打ち、入浴で一休みしました。

休憩後、室伏さんの知人の竹下明宏さんが、久遠寺の直ぐ裏に築窯しておられる「身延窯」に立寄り、小田原・本立寺に納められるため十三年かけて挑戦中の等身大の三十三番神についてアルバムを通して話を聴き最後の三体の頭部を見せていただき、その後、一路本栖湖に向かいました。生憎の天気のため、千円札ビュースポットからの

富士山の雄姿を見ることができず、精進湖・西湖・河口湖も周辺の霧囲気を感じるだけの旅になりました。車中では、ビンゴゲームや、富士山一周ドリムウォークに挑戦中の助政さんの名ガイドで、天気に恵まれなかった旅を大いに盛り上げていただきました。

帰路はほぼ当初予定通りに河口湖ICに入り、一路新宿駅に向かいましたが、二ヶ所の事故発生の影響もあり大渋滞。予定時間を大幅に超えた二十時四十六分の到着となりました。

途中、ちよつと書きにくいハブニングもありましたが、ともかくも全員元気に旅を終え、解散となりました。

参加いただいた皆さん、早朝から遅くまで、本当にお疲れさまでした。これに懲りず次回も是非、ご参加ください。(事務局 八谷英樹)



昼食の身延温泉ホテル前にて

以前にも記事が出ていたはずで、しつこく紹介することになります、人が変わればまた違う霧

**【囲碁同好会】**  
四十年卒 瀬尾 明雄

庄原さくら温泉  
簡易保険加入者福祉施設  
庄原簡易保険総合レクセンター

**かんぽの郷 庄原**

〒727-0004 広島県庄原市新庄町281-1  
TEL.0824-73-1800 FAX.0824-73-0100

<委託運営会社> 株式会社サンヒルズ庄原

会長 和 泉 雅夫(昭和34年卒)  
社長 長谷部 泰士(昭和38年卒)

どんな小さな工事・修理でも、お気軽にご相談ください

**ガーデン&エクステリア**

0120-454295 お気軽にどうぞ

**株式会社 八王子装建**

代表取締役 西 谷 光 徳(昭和46年卒)

諸官庁工事指定店 10年保証 お見積り無料 迅速対応  
八王子市市安町1-32-19

TEL: 0426(45)4295 FAX: 0426(44)8549  
URL: http://www.h-soken.com/ E-mail: nisitani@h-soken.com

開気が紹介されるかと思ひ投稿要請を受けまし

「東京庄原格致会囲碁同好会」は今年十一月で一〇〇回目の例会を迎えることになり

まず、場所の紹介をしましょう。若者の街、新宿です。JR新宿駅からそのビルまで雨の日でも濡れないで行くことができる

囲碁の話になると、子供の頃が思い出されます。庄原での農家の小学生の頃です

特別父が強かったわけではありませんが、私に黒石を何目か置かせて毎晩のように二、三番行っていました

囲碁は弱い人は置き石をし、強者に対しハンディをつけて、力の差を考慮した対戦ができる

その後、社会人となり、職場で何回か打ちました。囲碁の本を読むこともなく、子供の頃の経験がベースでした

当囲碁クラブに入れてもらい、囲碁の本を読みながら少し勉強もしながら、勝ったり、負けたりですが、興奮を少し抑えながら囲碁を楽しんでいます

ふるさとのことば その2

(備北地方の方言)

「前回に続き、西城町出身で広島大学教育学部を卒業後、県内各高校の教諭・校長を歴任され、現在、広島文化短期大学講師の竹島薫先生の著書「ふるさとのことば(備北地方の方言)」から抜粋し懐かしい故郷の言葉を紹介させていただきます

ジナクン

「うそ」でたらめ「悪ふざけや冗談」のこと。「そが」なジナクンを言うななどと言う

エツト

「たくさん」とか「大量」の意味。「エツトある」「エツトない」「酒はエツト飲むな」などと言う

オッチラ(ト)

「ゆっくり」のこと。食事や風呂を勧めたり、済んだ時など亭主の挨拶としても使う

「どうも御馳走さまでした」や「お先にいただきます」に対して「どうぞオッチラトしてつかーさい」と言うように使う

キヨウテ

「怖い」「恐ろしい」のこと。「上級生がキヨウテ」「幽霊がキヨウテ」などと言う

以上、「ふるさとのことば」より

今回はそれに加え、合田会長の幼友達である飯島千鶴子様(川北町出身・安芸郡府中町在住)から、昔を思い出され、合田会長を通して投稿いただきましたのでご紹介いたします

庄原はヒンゴテ(毎日)雪が降って、ゴイギ(大さ)積もつとるんと。ホンマ(本当)にドエライ(大変)サビ(寒)いわ

サンノズ(首)ヘテヌギ(手拭)を巻いてヒガナ(二日)炬燵にあたつとるんよ。コマイ(小さい)時にゃあ風呂のおキ(残り火)を十能(じゅうのう)の中に入れて炬燵にくべよった

三月になり、節句が来ると、母がホトギ(あられ)を炒ってくれた。それを兄妹がドンジ(奪)い合つて、して食べたんよ。ハシリ(炊事場)の水はコンコウリ(氷)が張つて、駄屋のベッチ(子牛)も白い息をはいていた

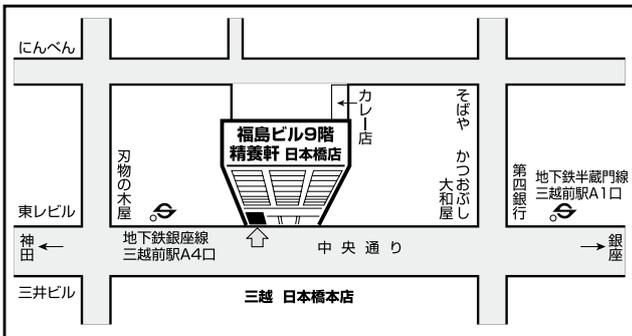
以上、飯島千鶴子さんの投稿

どうですか、皆さん。故郷のことばはいいですね。心が温まります。ふるさとのことば「皆さんも是非ご投稿ください」



ふるさとの近景 雪景色の西城 (37年卒新山千櫻氏撮影)

総会・会場のご案内



〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-5-3 福島ビル9階

上野精養軒 日本橋店

TEL (3241) 2741 FAX (3246) 2934

編集後記

今年の関東の梅雨明けは七月十四日と例年より一週間近くも早くなりました。さぞ暑い夏になるかと思つていましたが、その後はハッキリしない日が八月下旬まで続きました

さて、この会報が皆様に届く頃には、総選挙が終わり、新しい内閣がスタートしているはずですが。現時点では選挙がどういう結果になるか予断を許しません

特に地方の疲弊は想像以上で、庄原市も例外ではありません。こうした中、母校の校長先生のお話(2面)にもありますように、先生・生徒が丸となって目標に向かって頑張っている姿には感動します

私も東京庄原格致会としても、郷土・母校に少しでも貢献できることは何かを今こそ真剣に考え、実行していきたいものです

今年の総会は「皆様のお考えをお寄せください」として、同封してあります

最後にありますが、当会運営の「血液」であります「年会費」を同封の振込用紙で何卒納入くださいますようお願い申し上げます

【寺川】

「年会費」は、東京庄原格致会の会報発行等の運営費を賄うための最も重要な財源です

御一人二千元をお願いしております。お送りしております振替用紙で入金いただきますよう、よろしくお願ひ致します

\*\*\*\*\*

基金への御協力ありがとうございました。この一年、次の方々から出資いただきました。ありがとうございます

- 梶川 宣様 (昭和三十年卒)
花田和教様 (昭和四十年卒)
守長和子様(倉本) (昭和四十一年卒)